

# さんるいかんとうたち 三累環頭大刀



長さ約九三センチ、幅約三センチ。三累環式の柄頭を有する。柄装具は、三累環頭、筒金具、銀線、鞘縁金具と続く。

三累環は金銅製で、下方の二環が筒金具に喰い込み基部の区別が明確でなく、古式である。三累環内に金銅製の人物像（神像）を配する。環頭の茎と刀身の茎を目釘によって、筒金具も含めて綴じ合わせる。筒金具と柄縁金具はいずれも銀製で、筒金具は断面八角形を呈する。責金具は金銅製で刻み目等が施される。柄間は刻み目のある銀線纏きで、両端が密である。

鞘口金具は銀製筒形で、内部に鞘縁金具が入り込み、呑口式である。鞘口金具の切先側にも、同様の金銅製の責金具を有する。鞘には一条で金製の鍔留めの飾りが入る。鞘尻金具は少し離れて検出された。同様に銀製で責金具を伴う。

なお、佩表となる下面には、布、木部の残存が認められる。レントゲンにより、刀身に人物像（神像）、龍虎文、花文の三組の象嵌を持つことが判明した。三累環頭大刀としては古式であり、刀身に文字以外の図像がある大刀としては最高級である。刀身象嵌の龍虎文は国内二例目であり、人物像（神像）は他に類をみない。